

令和3年7月14日（水）

育友会会員のみなさま

部活動検討委員会

第3回部活動検討委員会議事録について

<参加者> ※出席者に 令和3年7月9日（金）18:30～21:00 鳥越中学校体育館研修室にて
中川会長 上野 副会長 大坪 副会長 坂田 福田 紺谷 澤崎
中村 東 重田 清水（進行） 久司校長 石田教頭（記録） 山岸

<話し合われた内容>

1 挨拶 中川育友会会長・久司校長

2 議題

（1）前回の内容と決定事項の確認

- ・適正部活動数は2が妥当である。
- ・学校が在校生の意見を聞き、次回の部活動委員会で報告する。
- ・野球部（在校生）のことは校長に一任する。ただし合同チームで出場できるように動いてもらう。

（2）生徒からの意見

<生徒が前回議事録を読み、意見交換をした後に出された検討委員会への意見文を読んで>

- ・部活動数が減少していくのは仕方がないと思っている子供が多い
- ・陸上部があるとよいと思っている子供が多い
- ・ソフトテニス部と書いている子供がいることに驚いた
- ・3年間続けて達成感を得たいという思いは子供も持っている
- ・生徒の話し合いの前に運動部を推奨するとして話し合いが始まっているが、文化部を作ってほしいという意見もある。このことから、自由な意見交換ができたのだと感じた。
- ・文化部は地域活動部で認めてあげることが可能かを考える必要がある。
- ・多くの意見があるが、ここからどのように提案を作るのかを考える必要がある。
- ・部活動名を挙げてもらい、検討するような作業が必要ではないか。例えば「～としたいから〇〇部が必要だ」など建設的な意見交換をする必要がある。

（3）育友会会員からの意見を確認

<前回からこれまでの間の育友会会員からの意見を確認>

- ・6年生の野球をしている子供の親から、「学童野球の中学校版は難しいのか？」と聞かれた。
→ それは、部活動ではないため、検討会で意見をまとめられることではないように思う。もし地域のチームとして活動することになったとしても、大会に出られるものは限られてくる。チームを組める人数が集まらなかった場合に子供のことが心配である。

(4) 適正部活動数2の選定方法について

- ・次の2つのどちらかで行うかということ、話し合いを始める出発点としたい。話し合いの中で選定方法が変わることがあってもよい。
- ①廃部規定になっている部について存続の可否、その結果次第で他の部活の存続の可否を話し合う。2つの部活動に絞られた段階で、それでよいかを確認。
- ②グラウンドに1部活動、体育館に1部活動という条件で議論していく。

(5) 出席者からの意見

<適正部活動数2の選定方法①②を確認した後に話し合いを始める>

- ・前提を覆すことになるが、部活動は1つになってもよいのではないかと。例えば、夏は陸上部、冬はスキー部か体育館内の部活動という方法もある。この場合、2つの部活動というとりえ方もできる。
- ・部活動を一つだけとするのは選ぶことができないということになるので、多様な人、多様なニーズに応えられなくなる。
- ・陸上部を作るという考えはよいと思う。だが、一つだけというのは気になる。
- ・陸上は個人競技というのが作る理由になる。加えて、走るだけでなく、砲丸や幅跳びなど多様でもある。選べることにもなる。
- ・2つの部活動のうち、1つが陸上というのがよいのではないかと。陸上という生徒の意見も多かった。
- ・白嶺中は陸上部、卓球部、水泳部を行っている。そこと同じにするというのはよいのではないかと。
- ・交流もでき、一緒に高めあうこともできる。
- ・これを一つの意見として子供に示すのもよいのではないかと。それをもとに時間をかけて議論してもらうことを大切にしたい。
- ・子供に話し合ってもらうときに、部活動内で話し合う方法もある。
- ・まずは、前回と同じグループで、今回の提案をもとに話し合ってもらって意見を出してもらった方がよいのではないかと。その意見を部活動検討委員会へ戻し、詳細を詰めていくことがあってもよいと思われる。
- ・生徒の意見を見てから案を作ったので、すんなり受け入れてくれる人もいるだろう。
- ・2つの部活動ではなく、地域活動部に多くの子供が入っていくのは部活動が存続できなくなるため、避けたいところである。
- ・議論して行く中で、要望も出てくるだろうから話し合いを続けることは必要だろう。
- ・今、在籍している部活動の中で意見を決めるとしたら、子供同士の中でストレスがたまるのではないかと。
- ・そういった議論のなかで、しゃべれない、思いを言えずにストレスを受けることはある。そうだとすると、そこから立ち上がる強さを身に付けていかなくてはいけない。部が無くなるという現実があった時に、しっかり考え、行動できる力は育ててほしい。
- ・生徒同士で、この2つでよいかどうかを多数決で決めることはしないでほしい。話し合いで決めて、次の行動につなげてほしい。
- ・そういったストレスが生まれそうなら、親からのフォローも必要になるのではないかと。
- ・話し合いによって感じるストレスで、不機嫌になる子供も出てくるかもしれない。そういった場

合に親には、子供の相談にのってあげてほしい。

- ・家庭で、今回の議事録を読んでもらって話し合いをしてもらってから、学校で話し合うという手順なら、ストレス軽減になるのではないか。
- ・決定が近づいてきたときに、部活動内での話し合いも必要になってくる。
- ・3年生の意見を聞いてもよいのではないか？
- ・3年生には、議事録や途中経過をお知らせするだけでよいのではないか。もし意見があれば、検討委員会に伝えてもらう、学校の先生に伝えてもらう。

(6) 今回の決定事項の確認

- ・今回の議事録を全家庭に配付してから、生徒が話し合い、検討委員会への意見を出してもらうこととする。
- ・案は、陸上部と卓球部の2つとする。理由は、どちらも個人競技であり、部員全員が必ず大会に参加できる。陸上競技では走る以外に砲丸・走り高跳び・走り幅跳びと多くの種目があり、卓球にはシングルス・ダブルスもあることから、どちらの部活動であっても多様なニーズに応えられる。加えて、グラウンドと体育館を有効活用できるとともに比較的、用具等の費用が安い。さらに、近隣校である白嶺中との交流を行いやすく、高めあう関係になることが望める。
- ・この後、案に対する生徒からの意見を出してもらった後も、意見のやり取りをしながら、部活動を検討し、詳細を決めていく。

<次回>

8月30日(月) 19:30~21:00 鳥越中学校体育館研修室にて